

代表質問・一般質問



北陸新幹線は本当に必要か

日本共産党代表

山田 安信 が問う

憲法9条改憲、沖縄基地と地方自治について

Q 遺族会の方から「憲法9条を変えるのは絶対にダメだ。二度と私のような遺族をだしてはいけない」と言われた。安倍首相は、自衛隊を憲法に書き込み、市町村を自衛隊員募集に利用する意図を述べたが、勝山市は自衛隊への名簿提供方法を変更するのか。また、地方自治の立場から、沖縄県民投票で示された「基地反対」の意思を尊重すべきと考えないか。

A 勝山市では、住民基本台帳法に規定する閲覧を基本としている。全ての国民が真摯に受け止める機会となったことは事実であり、さらに議論が深まることを願う。

北陸新幹線と特急存続 在来線の負担について

Q 乗換が必要な敦賀延伸はお粗末だ。特急存続を求めないか。また、高く不便になる北陸新幹線の延伸は必要ないと考えないか。さらにJR在来線の負担は、えち鉄と同様にすべきと考えないか。

A 敦賀延伸後の特急存続について、強く求めていく。また、関係自治体と共に早期開業に向けて取り組みたい。
現時点では、在来線の負担について要請はない。要請があった場合には、慎重に判断したい。

〔その他の質問〕

- ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョンへの勝山市の対策について
- 持続可能な健全な財政づくりについて
- 勝山市の人口対策として、市民の社会的流出を最小限にすること
- 介護関係職員への支援を拡充して、介護施設をめぐりつぱい活用する対策について
- 勝山市の潜在力を生かす、かつやま子どもの村小中学校との連携について



学校内問題の対応強化を

立志会

下牧 一郎 が問う

スクールロイヤー制度について

Q 当該制度は「子どもの最善の利益」や「子どもの成長発達を保障することができると学校環境」を実現することを目的としたもので、いじめ問題について弁護士知識や経験を活かして、いじめの予防や解決につなげる弁護士サポート制度である。
具体的には学校で起こる様々な問題、例えば教員による子供への体罰や不適切な言動の問題、

学校内での子どもの事故、保護者からの不当なクレームや近隣住民との問題、教員間でのパワハラやセクハラなどへの法的な対応など、様々な学校内の問題に対して第三者性を持ったスクールロイヤーの導入について伺う。

A 児童生徒が、法律の専門家から直接、実例をもとに、人権を守ることの重要性やいじめの法律上の扱いについて学ぶこと、教職員が、児童生徒を取り巻く問題について法的アドバイスを受けた研修することは、学校現場を取り巻く解決困難な問題に対する、予防・対策・解決や、教職員の働き方改革に向けても有効な手立てである。

県の教育委員会が先般策定した「福井県学校業務改善方針」においても、スクールロイヤー等の専門家の配置について今後取り組む方針が示され、市町教育長会議等を通じて、できるだけ早く実現するように、県に要請していきたいと考える。

〔その他の質問〕

- デジタル教科書について
- 専門分野の人材の育成について



勝山市の価値を伝えたいという熱意を

立志会

竹内 和順 が問う

勝山市「教育に関する大綱」について

Q 次期学習指導要領の改訂に伴って、新たに勝山市教育大綱を策定する計画があるのか伺う。

A 現在の勝山市教育大綱は新しい指導要領の骨子を反映した形になっているため、計画通り2021年度に市長が教育委員会と協議の上、新しい教育大綱に改訂されるものと想定している。

市の広報のあり方と 広報戦略について

Q 勝山市が全国区になる可能性を秘めたダイヤの原石は必ずある。地元の私たちはそれに毎日接しているため、「当たり前」になっているが故に、その価値になかなか気づきにくくなっている。地球上全ての人々が情報発信を始めた今、声を上げなければ「存在しないのと同じ」。行政の広報のあり方と広報戦略を伺う。

A 今年度、報道機関への情報提供は350件以上、定例記者会見では63件の情報を提供している。さらに、公式ホームページをはじめ、動画配信サイトのほか、SNSを使い、情報発信を全世界に対して行っている。

これらのツールを使い、様々な年代、様々な地域にあった戦略的な情報発信を行うことで効果的・効率的な広報が可能と考えている。

〔その他の質問〕

- 有効な人口減少対策について